



▲育児支援を含めた乳幼児健診

Q 妊婦無料健診の拡充は

A 来年度から回数を増加

Q1 本村で「公費による妊婦の無料健診」は2〜3回分だが、来年度から回数を増せないか、また、健診料の貸し付け制度を創設できないか。

A1 母体や胎児の健康の確保や妊娠・出産に係る経済的不安を軽減するため、来年度から公費負担による妊婦健康診査の回数を増加する考えです。また、貸し付け制度は考えていません。

発達障害発見に5歳児健診

Q2 発達障害の早期発見のため5歳児健診を実施しては。

A2 村では、1カ月児、6〜7カ月児、1歳児健診の3回は医療機関での個別健診で、3〜4カ月児、9〜10カ月児健診の2回は集団健診で実施しています。

また、母子保健法において実施が義務付けられている1歳6カ月児、3歳児健診は集団健診で実施しています。また、3歳児健診は、3歳4カ月から5カ月児を対象に実施しており、発達等に課題のある子どもにつきましては、保健、福祉分野において、発達相談の専



相原 孝彦 議員

門家による各園の巡回相談などを実施しますので、現時点で5歳児健診の実施は考えていません。しかし、本健診の先駆的な市町村の取り組みやその有効性などの情報は、今後の育児支援体制に活用いたします。

村内の小規模企業の支援を

Q3 公用車の車検・点検、庁内の備品・消耗品の村内企業発注の考えは。

A3 村には115台の公用車があり、車検、点検は、購入先に依頼しています。

しかし、村内業者の育成の観点から、できるものは村内業者に発注するよう考えます。

また、消耗品等は、入札参加資格業者登録制度を優先し公平な立場で購入します。

Q 幼保小中の連携事業は

A 相互に協力し課題解決



佐藤 澄子 議員
(春緑クラブ)

Q1 幼稚園、保育園、小学校、中学校の連携を軸として展開されている事業内容とそこから見られる現段階においての課題は。

A1 近年、小学校に入学したばかりで集団生活になじみず、授業中に立ち歩いたり騒いだりする、いわゆる「小一プロブレム」や中学校入学に伴う生活・学習環境の変化によって生じるいじめや不登校、学習

内容の理解の低下など、いわゆる「中一ギャップ」が教育の問題になり、義務教育を中心とする学校間の連携・接続のあり方に課題があることが指摘されています。

このような状況を踏まえ、17年1月、中央教育審議会は「子どもを取り巻く環境を踏まえた今後の教育の在り方について」を答申し、その中で、幼児の生活の連続性及び発達や学びの連続性を踏



▲これからも大切にしたい連携意識

まえた幼児教育を充実していくために、小学校教育との連携・接続の強化・改善の重要性を提言しています。

本村の連携を意識した事業内容と課題については次のとおりです。

【事業名】幼・保・小連携研修会

【内容】南巢子保育園と滝沢第二小学校にて先生を対象に保育と授

業をお互いに参観し合い、幼児に対する保育や小学校における生活、学習の様子を理解し、そのあり方を共に考える機会として年一回開催。

【事業名】小中学校合同の会議・研修会

【内容】教員の授業力向上のための研修会や道徳指導の研修会など、異なる学校間の授業参観と協議。

不登校・不適応対策の会議などにおいて、児童生徒の問題行動や不適応の状況についての情報共有など、相互に協力して課題解決が図られるように取り組んでいる。

【課題】子どもたちの健全育成や学力向上のためには、幼稚園、保育園、小学校、中学校のすべての先生が子どもたちの成長を連続的なものとして捉え、それぞれの発達段階に応じた適切な保育や指導を行なうことができるようになることが大切である。